

私の一冊

歯科衛生学科 藤原愛子 先生

三谷雅純著 『ヒトは人のはじまり: 霊長類学の窓から』

小鹿図書館 : 489.9/Mi 58 (毎日新聞社)

私たちは、多様な文化を背景に持つ人の集まりである社会、多様な個性の集まりの中で生活しています。歯科衛生士、看護師、保育士、介護福祉士など、本学の学生の多くは種々の資格を取得して巣立ちますが、卒業生は、他者の多様な能力と補いあいつつ自らの能力を発揮することで、専門職業人として人々の健康な生活に貢献しています。今回ご紹介する「私の1冊」は、障がいも個性と認め、多様なヒトが人として生きる社会を考える機会を与えてくれた1冊です。

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震は、あまりにも大きな被害をもたらしました。被災地ではいのちをつなぐために、そして立ち上がるために、被災者同士が手を取り合い、それを支えようと日本人が手をつなぎ、世界の人々が手をさしのべています。

今、被災者のかなり多くは、仮設住宅の住人として、新たな地域社会を形成しつつ生活なさっています。この地域社会ももちろん多様な個性をもつ人の集まりですから、住人は、リーダーとしてまとめ役を担う人や、仮設住宅での生活を少しでも快適にするための工夫を皆さんにお伝えする人など、様々です。そこでは、住民を「孤立させない」ことが重要なテーマになっています。孤立させないためには、孤立しがちな個性を知って、それを認める・受け入れることが一つの課題になります。

他の人と同じように行動しないヒト、自ら社会に適応するよう努力しないヒトが孤立しがちなのだと指摘する考えは、排除感をもたらし、仮設に閉じこもるヒトを生む可能性を持っています。多様な人が集まる社会には、同じように行動することができないかたもいらっしゃいます。協調した行動をとっていても、見かけ上、それがうまく伝わらないために、社会での生活に苦労なさっている方もあります。

本学では、すべての学科・専攻の学生が、社会的弱者について考えながら人としての生活や人生を支えることについて学んでいます。しかしながら、社会的弱者に自然体で対応することができる人は少なく、できるようになるにはもっともっと考える時間を持つことが必要ではないかと感じています。あなたは、多くの人と同じように行動しない方を「待つ」ことができますか？わたしは、それができないことがしばしばあります。東日本大震災発災後 2ヶ月になろうとする

時期に歯科衛生士として被災地に入りましたが、避難所で生活する人々と会話して自然体でニーズを聴きとることができるようになるまでに、時間を要しました。わたしのものさしで、出会った人の行動や言葉の意味をはかっていたせいだと思います。また、歯科衛生士として人びとに向き合おうとしているのではないかと、反省する時間が必要でした。

ご紹介するのは、三谷雅純さんの『ヒトは人のはじまり』（毎日新聞社）です。この本は 2011 年 6 月に発行されたのですが、被災地に行く前に読むことができたら、もう少し早く、自分のものさしをすてることができたかもしれません。

三谷さんは、京都大学で学び、兵庫県立大学自然・環境科学研究所に席をおく霊長類学者です。『サルや類人猿の社会や行動を通して見えてくる、「人間の本质を探る科学」』者として、この本を著していらっしゃいます。そして、三谷さんは、(漢字を書くことの)学習障がいがあり、脳こうそく(著者はこのような記述の仕方を取っています)を発症して、失語や身体機能の不自由あるいは疲れやすい体質などと折り合いをつけながら、フィールドでの研究活動を徐々に回復する過程にあるという個性の持ち主です。

本書は、毎日新聞兵庫県版に週に 1 回連載された一部を集めて構成されていますから、1 編 1 編をひろって読むこともできます。それでいて、「ことばをもつとは？」を考えさせられ、「“健常者”によって形作られた社会の問題」や、「社会で生きる人は多様であること」に気づかされたり、「差別の概念」について考えさせられたりする 1 冊です。良かったら、読んでみてください。